

平成22年4月26日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18530427
 研究課題名（和文） 居住条件不利地域におけるコミュニティの維持・再生に関する研究
 研究課題名（英文） Research of the Reorganization of community in a Disadvantaged Area
 研究代表者
 叶堂 隆三（KANADO RYUZO）
 下関市立大学・経済学部・教授
 研究者番号：50224580

研究成果の概要（和文）：本研究は2006年度～2009年度の4年間、研究対象地である広島県呉市：都市斜面地・外国人居住地、香川県土庄町豊島：離島地域、長崎県長崎市：都市斜面地の地域調査を通して得られた調査データ・研究資料に基づいて、自然環境（および社会環境）によって及ぼされる居住条件の不利性の内実、そうした不利性を克服することがコミュニティづくりに結びつく条件の把握について、多様な事例を通して解明することができた。

研究成果の概要（英文）：This study(during four years of from 2006 to 2009) is to aim to elucidate the fact of the life in a disadvantaged area of a residence condition given to by natural environments (and social environment), such as a city slope ground district(Kure city, Nagasaki city), a place of foreigner's residence(Kure city), and a remote island area(Teshima).And, through the survey data provided various cases ,we grasp the condition to be tied to the reorganization of community.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1200000	0	1200000
2007年度	800000	240000	1040000
2008年度	800000	240000	1040000
2009年度	600000	180000	780000
年度			
総計	3400000	660000	4060000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：3801

キーワード：居住条件不利地域 コミュニティ 維持・再生 斜面地 外国人居住地区 離島

1. 研究開始当初の背景

今日、居住する上で自然環境の制約を被る地域で居住放棄、生活サービスの低下、公共交通の不在等の社会環境（生活サービス）の低下が見られ、地域社会の維持の困難な状況が日本の各地で見られている。それは、一般に

想定される、いわゆる「過疎地域」である山間地域・離島地域にとどまらない。戦前から、あるいは高度経済成長期に発展をとげた地方の工業都市、とりわけ深い海岸に水深が求められるために地上においても急傾斜地形が特徴的である造船業の展開した工業都市

の斜面地（これが住宅地として開発された）等も、住民の高齢化とともに同様の状況を呈したのである。

2. 研究の目的

（1）こうした居住条件不利地域の生活条件の維持・改善を経済学や都市工学の観点からではなく、コミュニティの維持・再生という観点から把握することを目指すことである。すなわち、居住条件不利性に伴って発生する生活剥奪状態が契機となることで、それがコミュニティの維持・再生に向かう可能性とその要件を、いくつかの事例を通して、探ることにある。

（2）同時に、従来、社会学の領域では十分に認識されて来なかった自然環境・社会環境の制約によって生じる生活剥奪の状況を把握することである。すなわち、斜面地等の立地上の制約が、どのように住民の社会関係に影響を及ぼしているのか、また、生活サービスや公共交通の不在が、どのように住民の生活に影響を及ぼしているかを、事例を通して、明らかにすることである。

3. 研究の方法

（1）まず初年度、居住条件不利性の要因に関して、地理的要因・社会的要因を識別して、地理的要因として、従来から指摘されている離島・半島・山間地域に加えて、都市斜面地域を設定して、福岡県行橋市（新田原地区）・佐世保市（大崎地区）・香川県土庄町（豊島）・徳島県上勝町、そして広島県呉市・尾道市・長崎市を研究代表者・研究分担者の4人全員で予備調査した上で、研究対象地域を都市斜面地域・離島地域として、豊島・呉市・長崎市を選定するとともに、社会的不利地区として外国人居住地域として呉市広地区を選定して、2年目に4人が合同でフィールド調査を実施した上で、研究対象地域を分担することにした。

（2）3年目、4年目のフィールドワークは、分担して実施することにして、土庄町豊島、呉市両城2地区・広地区、長崎市内3地区（江平地区・十善寺地区・立神地区）の地域住民に関して町内会・自治会等の地域組織のリーダーや地域運動組織等のリーダー、行政や行政関連組織等の担当者、自治体議員等に地域状況や住民の生活状況、地域組織の活動状況の聞き取りを実施した。

（3）その上で、地域住民および行政等の協力が可能であった香川県の豊島・直島、広島県呉市の両城2地区、長崎市十善寺地区にお

いて、一般の地域住民を対象にした調査票調査を実施した。豊島・直島の住民調査は公共交通を中心にした調査票を作成し、呉市両城2地区と十善寺地区の住民調査は斜面地城の立地別の生活サービスの状況と地域住民の社会関係（近隣関係・親族関係・友人関係）を中心にした調査票を作成した。それぞれ、比較研究が可能であるものを設計している。

4. 研究成果

研究成果は、雑誌論文・学会発表・研究報告書等で発表している。

（1）都市斜面地に関して、呉の調査結果を通して明らかになったのは、斜面地上の立地によって、通常の地図では把握が不可能な生活サービスの利用可能性に差が生じていることである。すなわち、通常のエリア的なサービス提供の限界が明白になったことである。とりわけ、住民の高齢化とともにこうした生活サービスの剥奪状況の差がはなはだしくなっていることが確認できた。また、地域住民の社会関係に関して、両城2地区のように平地を含む地区の場合、立地の良いところ（平地）では、立地の悪い場所に比べて、地区外の親族・住民との関係の強さなどが確認できる一方で、立地の悪い場所（とりわけ斜面地上）においては、親族や友人を含めた地区外の人びととの関係が希薄になる傾向が確認できる一方で、離島や山間地域と同様に近隣関係の強さが確認できた。ただし、こうした近隣関係は自治会等の地域組織に結びつくものでない点も明確になった。こうした社会関係の状況から、立地の制約・影響が生活サービスだけにとどまるものでないことが明らかになっただけでなく、斜面地におけるコミュニティの維持・再生を図るには、問題となる斜面地のみ限定せずに、平地を含む地区で取り組んでいくべきであること、そのためにも斜面地の周辺の住民との地域づくりが重要であることが提言できるように思える。

（2）離島地域の場合、調査票調査を通して公共交通（島内・島外）の利便性の問題がきわめて重大であることが改めて確認できたとともに、地域資源を生かした産業（瀬戸内海離島においては観光）への期待が大きいことが明らかになった。外国人居住地区に関して、既存の社会運動型の地域組織が、行政からの補助金等の減額化の中で、新たな活動の展開として、外国人住民を活動の対象として受け入れている状況および背景が確認できた。

（3）これらの成果は、5に示しているように、研究業績として発表している。とり

わけ、科学研究費補助金基盤研究(c)成果報告書として、「居住条件不利地域におけるコミュニティの維持・再生に関する研究—平成18年度～21年度」(2010、1-118頁)を刊行している。その中で、「横田尚俊「急傾斜市街地における居住環境と住民生活—呉市・両城2丁目地区における調査の結果から—、叶堂隆三、都市の斜面地の住民生活とコミュニティの形成—広島県呉市両城地区における居住の展開と住民の社会関係—、室井研二「離島における住民生活の現状—香川県豊島を事例にして—」、山本薫子「外国籍住民増加にともなう地域活動の試みと展開—広島県呉市を事例として—」として、研究成果を明らかにしている。

(4) 雑誌論文・学会報告・科学研究費補助金基盤研究(c)成果報告書だけでなく、すでに地元自治体の要望によって、こうした研究成果を生かす形で、こうした収集データや分析に基づいた政策提言を行なっている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

①叶堂隆三、都市・居住条件不利地区のまちづくり—長崎市の斜面地におけるまちづくりの事例、福岡国際大学紀要、査読無、19号、2007、75-85

②室井研二、離島の交通とサスナビリティ—香川県豊島を事例にして—、香川大学教育学部研究報告1部、査読無、130号、2008、21-35

③横田尚俊・叶堂隆三、急傾斜市街地における住民の生活の現状—呉市・両城2丁目地区における調査から—、現代社会学論集、査読無、別冊3号、2008、32-55

④室井研二、「縮小社会」の合併・分権改革—交通社会学的考察、社会分析、査読有、36巻、2009、65-81

⑤横田尚俊、急傾斜市街地における居住環境と住民生活—呉市・両城2丁目地区における調査の結果から—、やまぐち地域社会研究、査読有、7号、2010、139-150

⑥叶堂隆三、都市生活における自然環境の制約と住民の社会関係—広島県呉市の斜面地(両城地区)住民調査を通して—、やまぐち地域社会研究、査読有、7号、2010、127-138

⑦叶堂隆三、都市の斜面地の住民生活とコミュニティの形成—広島県呉市両城地区における居住の展開と住民の社会関係—、下関市立大学論集、査読無、135巻、33-44

[学会発表] (計3件)

①叶堂隆三、居住条件不利地域における住民生活の現状—長崎市における聞き取り調査

の結果から—、山口地域社会学会(第18回研究例会)、2008.7.12、山口大学

②山本薫子、外国人住民増加が都市コミュニティに与えた社会的インパクト—広島県呉市を事例にして—、日本都市社会学会(第26回大会)、2008.9.13、法政大学

③室井研二、離島における環境再生—香川県豊島を中心に—、地域社会学会(第34回大会)、2009.5.10、岡山大学

[図書] (計1件)

①叶堂隆三・室井研二・山本薫子・横田尚俊、居住条件不利地域におけるコミュニティの維持・再生に関する研究—平成18年度～21年度 科学研究費補助金基盤研究(c)成果報告書、2010、1-118

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

叶堂隆三(KANADO RYUZO)

下関市立大学・経済学部・教授

研究者番号: 50224580

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

室井研二(MUROI KENJI)

香川大学・教育学部・准教授

研究者番号: 20310013

横田尚俊 (YOKOTA NAOTOSHI)
山口大学・人文学部・教授
研究者番号：10240194
山本薫子 (YAMAMOTO KAHORUKO)
首都大学東京・都市環境科学研究科・准
教授
研究者番号：70335777